

事業報告書

(第 27 期)

自 令和 5年 4月 1日
至 令和 6年 3月 31日

笠間工芸の丘株式会社

第 27 期事業報告書

(令和 5 年 4 月 1 日より令和 6 年 3 月 31 日まで)

皆様におかれましては、平素よりご高配を賜り、厚くお礼申し上げます。

当会計年度の日本経済を取り巻く環境は、ロシア・ウクライナ戦争の長期化や欧州経済の低迷や米国経済がもたらす大幅な円安の進行、イスラエル・ハマス戦争など世界経済の状況の影響に左右されることとなりました。

日本は円安による物価上昇が個人消費の停滞につながったものの、大企業を中心に姿勢は前向傾向にあります。結果的には、雇用は拡大し賃金は上昇した一方、設備投資の再拡大とはならず全体の景気押上げとはなりませんでしたが、円安を背景にインバウンド需要は順調に回復し、訪日外国人数最多を更新しております。

当社の今年度の入場者数は、125,100 人となり、昨年度 113,300 人と比べても増加となりました。脱コロナを感じ取れる人の動きとなり営業日数も昨年度同様 310 日と計画通りの営業となりました。

秋より茨城県は JR グループと一体となって国内最大規模の観光キャンペーンである「茨城デスティネーションキャンペーン」が実施され、当社も体験企画や関連チケット、吊革広告ポスター協力など多くのお客様を受け入れ、ご満足いただけるようお迎えいたしました。

当社は、11 月より本格的な改修工事がはじまり、エリアを区切った改修ではありますが、ふれあい工房の規模縮小や「桃宴」や作家の個展中止など営業規模自体を縮小して営業を続けてまいりました。改修以降、営業としては厳しい制約を受けておりますが、令和 7 年 3 月以降の全面営業展開に向け、新たな「笠間工芸の丘」を示せるよう準備してまいります。

第 27 期の売上高合計では、218,759 千円となり、前年度の実績に対し 13,277 千円 (5.7%) 減少となり、11 月より始まった改修工事により下期の営業実績が減少したことが大きな要因となります。

物販部門全体の売上 145,673 千円となり、12,032 千円(7.6%)の減少となります。「桃宴」などのイベント参加の見送りやギャラリーを使用した企画展の中止など、十分に顧客を取り込める営業展開ができなかったことが全体の売上低下にも繋がったものと思われます。

また、工房部門の売上は 33,525 千円となり、1,078 千円(3.1%)の減少となりました。こちらも、1 月より「ふれあい工房」の改修に伴い、別棟の匠工房に体験場所を移し、受入規模が縮小となったことでの売上減少と考えられます。

手数料収入では、笠間芸術の森公園の管理手数料並びに工芸の丘指定管理料(芝生・樹木管理)に加え自動販売機手数料を含めると 38,004 千円となり、225 千円(0.6%)の増加となりました。

売上原価は、81,520 千円となり、原価率は 37.2%となりました。昨年度が 39.1%の原価率となりますので、全体的な収益性が向上できたことは、今後の営業にプラスとなりました。

従いまして、売上粗利益は 137,239 千円となり、前年比で 3,872 千円(2.7%)の減収となります。次に、販管費及び一般管理費は、148,854 千円となり、前年比 3,148 千円(2.2%)の増加となりました。

なお、工房体験発送料金などの 4,316 千円を営業外収益として計上させていただきました。

これらの状況から、経常損失は 7,516 千円となり法人税等充当額 185 千円を充当した結果、当期純利益は 7,701 千円の赤字となります。

来期も笠間市の観光振興と地場産業の発展に貢献し、さらに企業価値の向上を目指し従業員一同、一層の努力を傾注してまいります。

引き続きご指導、ご支援を賜りますようお願い申し上げます。